

"森の仙人"クロシロコロブスモンキー

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

アフリカにはサル仲間も少なからず暮らしていますが、ここにご紹介するクロシロコロブスモンキーは、ちょっと変わっています。

アフリカの草原で最も出会う機会が多いのは、サバンナモンキーやヒヒ仲間(オリーブバブーン、イエローバブーンなど)です。

一方、タンザニアのマハレの森に住んでいるチンパンジーや、ウガンダやルワンダにまたがるビルンガ火山群と、カヨンザの森に住んでいるゴリラ(マウンテンゴリラと、低地寄りに住んでいるローランドゴリラ)もいますが、姿の美しいことでは、クロシロコロブスモンキーの右に出るものはいません。

森林帯に暮らすクロシロコロブスモンキーは、体長 60~70cm、体重 10~20kg と見た感じよりもスリムで、高い木の枝から枝へヒラリと身軽に飛び移ります。

集団生活をするため、多い時には 30 頭位の群れを見ることがあります。

しかし何んといってもクロシロコロブスモンキーが他のサル仲間と際立って違う点は、毛皮の美しさにあります。顔全体を隈取るように生えた純白のフサフサとした毛

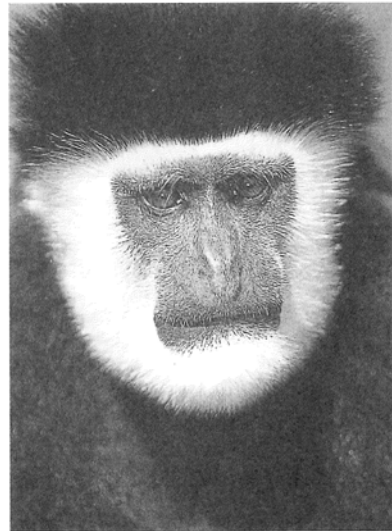


写真1 まるで哲学者のような顔

の中にある瞳は、まるで哲学者のように思慮深く見えます。キリリと真一文字に結ばれた唇は意志の強さを表しているかのよう…。

顔と体の大部分は黒色ですが、背中に蓑を付けたように生えている純白の毛と、長い尾の先の純白の毛が、美事なツートンカラーの美しさとなっています。

人間のファッションの世界でも、黒と白との組み合わせは時代を超えて人気がありますが、実はクロシロコロブスモンキーの



写真2 背中のは白く淵どられた裏のよう

ほうが、ずっと流行の先端をいっているの
かもしれません。

サハラ砂漠以南のエチオピアからケニア、
ウガンダ、タンザニア、そして赤道に沿って
熱帯雨林地域に広く分布しているクロシロ
コロブスモンキーですが、生活圏は森林帯
に限られます。主な植物は木の実、木の葉、
果実、樹皮、昆虫などで、ごく稀に地上に降
りて草の葉やミネラルを含んだ土を食べる

こともあります。

クロシロコロブスモンキーの赤
ちゃんは、最初は親と似ていませ
んが、次第に特徴のある2色使い
になり、母親そっくりになってき
ます。私が初めてクロシロコロブ
スモンキーを見たのは、小学生の
時。父がケニア山を望むアバーデ
ィア山塊に広がるアバーディア国
立公園を訪れた時に撮った野生の

クロシロコロブスモンキーの写真でした。

幼な心に「何んで不思議なサルだろう、
んてきれいな毛皮だろう」と印象深く記憶
に残りました。

それから6年後、初めて出かけたケニアの
ナクル湖畔に広がるアカシアの林で、クロ
シロコロブスモンキーが高い木の梢に座り、
じっとこちらを見つめているのに気が付い
た時は、感激で胸がいっぱいでした。

〈クロシロコロブスモンキーひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニ
ア、ウガンダなど）で話されている公用
語のスワヒリ語で、クロシロコロブスモ
ンキーは「ムベガ・ムウェウベ」と呼ば
れている。

▶野生のクロシロコロブスモンキーの

妊娠期間は160～180日。寿命は約20年。

▶クロシロコロブスモンキーの尾の白
と黒の割合は、住んでいる地域によって
少しずつ異なり、いくつかの亜種に分ける
ことができる。

●平岩道夫&雅代父娘写真展「アフリカ・
ケニアとタンザニアの野生動物たち」開催
（出品点数は合計1,700点）

11月16日（金）から12月4日（火）まで
の連日、東京・市ヶ谷の「フォトスペース
光陽」（JR市ヶ谷駅下車徒歩2分、江上料
理学院前）で、平岩父娘写真展が開催され
ます。動物ジャンル別写真集第3集『チー
ター物語』出版を記念して、チーターを始
めゾウ、ライオン、シマウマなど100余点
の大型カラーパネルを展示。17日（土）の

正午からは駐日ケニア、タンザニア両国大
使を迎えてオープニングパーティー。今夏
の「平岩アメリカツアー」参加者45名が撮
影した“私のアフリカ傑作ミニ写真展”

（1,600点）も同時併催されるほか、11月
25日（日）と12月2日（日）の両日午後3
時30分からスライド上映会も実施される。
入場無料。毎日午前10時から午後6時30分
まで。（但し最終日は午後5時で終了）。会
場道順の問合せは電話03-3316-6234番、ま
たはFAX03-3312-7558番へ。